

これからの私たちと福祉

伊勢原市立成瀬中学校

三年

夕田

晃輔

私はこの作文を書くまで福祉というものを

詳しく知らないまま過ごしてまいりました。国の

支出の中でも公共の福祉の費用は大きな割合

を占めていきます。そして、これからのその額

は増えていくとこれ、国全体の大きな問題と

なっていると思います。ここまでの大きな問題なのに

も関わらず、私は深く考えたりすることがありません

でした。そもそも福祉とはどのような意味か

あるのでしょうか？

福祉とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を表

す言葉です。つまり福祉は「人をしあわせ

にすること」や「よりよく生きること」とい

うことであると言えます。私はこれを知らず

福祉という言葉がとても好きになりました。

社会福祉の取り組みがこの社会に充分に行き

届けば、誰もが幸せでゆたかな暮らしがでま

ると思います。しかし、今はそのような状況

であるとは言えません。特に、高齢者福祉には問題点が多いと思います。介護でのストレスが苦しい人達、一人で生活するのが難しい高齢者の方などたくさんいると思います。私はこの問題を重要視するべきだと強く感じます。

私の祖母は軽度の認知症です。母もお世話でつかひまっっています。言。たことや、や。たこともすべて忘れてしまいました。介護となると大変なのか想像でまます。もし

かしたら、私の名前も覚えていないかもしれせん。しかし、これで軽度なのです。より症状の重い人達がたくさんいると思います。そして、介護をしている方がいます。そのような事を考えるたびに心配になります。近年の日本は高齢化がすすみ、国民の四人に一人が六十五歳以上です。その分要介護者も増えます。それと同時に少子化も進行しているため、介護者や担える人が減ること近い将来に重大な高齢者福祉の問題が起きるのかもしれない

うと、とても不安になります。年金や医療費
などが激増し、社会保障費が増加するおそれ
が大きいにあります。だからこそ、若者である
私たちがこの問題についてし、かりと考えて
いかなければならないのです。これからおこ
りうる高齢者福祉の問題が与える影響はたし
かにマイナすな面が強いと思います。ですが
それと誰かのせいにしてはいけません。社会
全体で考えていかなければいけないと思いま
す。年齢関係なく、互いに支え合う。これが
これからの高齢者福祉のあり方です。祖母と
接する上で気がつきました。今の社会では高
齢者が住みにくい環境やしくみがあると感じ
ます。若者がでても、高齢者が知らないこ
とばかりではありません。若者が使っている
高齢者が分からないこともあります。すべて
高齢者向けに合わせることはできません。でも、
それといるいる人が協力して支えることで
できるようになります。私の実体験
を述べて言えることです。これが貴重に

なるとされる若い世代の人々が変え合ひ、高
齢者によりそっていくことがより良い福祉に
つながると信じています。

遠い未来ではない高齢者福祉の問題はとて
も深刻なものです。このままでは福祉は実現
できないと思います。今、私たちができるこ
とをすすりしかありません。できるだけ高齢者
に住みよい社会・環境をつくり、介護者も互
いに支え合うという若い世代の私たちか
意識していくことが必要です。そしてそれが

できてはじめて、つしあわせであり、つ
かすところのある暮らしができるはずです。これ
がこれから目指すべき本当の福祉かと思いま
す。